

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/2)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	ハヤシ 林	ノリ 法	タカ 隆	
学歴	昭和48年 3月 慶応大学法学部政治学科卒業 昭和63年 3月 日本大学大学院法学研究科政治学専攻修了 昭和63年 9月 ジョージタウン大学院 インターナショナルポリティカルスクール・マスターコース在学「平3.2まで」							
学位	昭和63年 3月 政治学修士(日本大学)							
専門分野	国際関係論、アメリカ政治外交論、国際情勢論、国際コミュニケーション論							
専門資格								
所属学会	平成 3年 5月 日本国際政治学会 平成 3年10月 日本マス・コミュニケーション学会 平成 4年11月 慶応法学会 平成 5年 8月 日本政治学会							
受賞								
担当 授業科目	学 部 国際関係論、国際コミュニケーション論、メディア論、政治学系特殊講義3・4、 現代社会関連外国書講読、総合社会学基礎演習、現代社会研究演習入門、現代社会 研究演習、エクスターンシップ実習、ソーシャルスキル演習、社会人基礎演習							
論文指導	論文指導(卒論:0名)							
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	国際関係論	科目カテゴリー	講義・演習・実習・実験	実施学期	春・秋	履修者数	127名
	授業の概要	予測可能性の担保もなく、変化してきた世界は何を意味するのかを、「相互依存の深化」、「グローバル化の拡大」という時代認識と国際関係の諸現象を基に理解していきたい。						
	教育活動の振り返り	教育活動の成果： 毎回の講義終わりに、当該講義での感想や質問を記入してもらい、受講生の各々の講義を理解するのに必要な基礎知識の充足度合いを計ることで、その不足を填補し、体系的かつ本質的な視点を涵養する一助となった。						
	今後の課題	受講生が卒業後、本講義で得た知識を直接的に活かす機会は多くはないかもしれない。しかし、国際関係を理解するために必要なアカデミックな考え方は汎用性のあるものであり、自らの価値基準となり得るものである。本講義を通して、各々が決断をするに際して、自らが信じることのできる価値基準を修得し、思い描いた将来を実現できる者へと成長してもらえることを今後の課題とする。						
	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績	特になし。						
・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等	特になし。							
H26年度 研究課題	「国際政治学とアメリカ」との関係についての研究							
研究活動の概要 (平成26年度の)	1. アメリカのカルヴァン主義的伝統の歴史的推移と歴史対象との事例研究を行った。 2. 自由主義の資本主義的側面がアメリカ外交に影響を与えたという実証研究を重ねた。							

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/2)

主な研究成果等 (平成二十六年(2014)年度の)	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動)
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動)
社会における活動 (平成二十六年(2014)年度の)	
平成二十一年(2009)～二十五年(2013)年度の 主な研究成果等	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動)
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	書評： 1. 「浅川公紀『戦後米国の国際関係』」、単著、平成23年3月、政策研究フォーラム、『改革者』 (p.65)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
(学内活動)	
平成17年 4月 就職委員会委員「平26.3まで」 平成20年 4月 宗教委員会委員「平22.3まで」 平成22年 4月 研究成果刊行助成委員会委員「平24.3まで」 平成24年 4月 広報誌編集委員会委員「平25.3まで」 平成25年 4月 海外学術研究助成委員会委員「平26.3まで」	
社会における活動 (平成二十一年(2009)～二十五年(2013)年度の)	(小中高との連携授業の講師) 平成22年 京都文教高等学校 高大連携授業「アメリカ政治が世界を動かすか?」、於：同校